

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立富士見高等学校)

目指す学校像	規律ある落ち着いた環境で、生徒一人一人にきめ細やかに指導を行い、地域に開かれ信頼される学校
--------	---

重点目標	<p>1 生徒理解に基づきながら、「明るく挨拶」、「身だしなみを整える」、「時間を守る」を基本に、基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図り、豊かな人間性と社会性を育む。</p> <p>2 少人数学級編成や習熟度別授業などを効果的に展開して、きめ細やかな学習指導を行い、確かな学力を向上させ、生徒一人一人の進路希望の実現を図る。</p> <p>3 楓樹祭や体育祭などの学校行事、特別活動、部活動などを通して、社会の一員として逞しく生き抜く体力と気力を育む。また、近隣学校との交流活動や地域清掃などのボランティア活動を奨励して、地域に開かれ信頼される学校づくりを進める。</p>
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標			年 度 評 価 (2月1日 現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	・学校関係者や地域の中学校の方からは、「落ち着いた環境の規律ある学校」、「真面目な生徒が報われる学校」などの評価を得ている。しかし、基本的生活習慣が確立していない生徒や規範意識に欠ける生徒もみられる。今後も基本的生活習慣の確立と規範意識の向上に向けた取組を全教職員で協力して粘り強く実施していく必要がある。	・欠席者、遅刻者を減らすとともに、規範意識を向上させて特別指導件数を減らす。また、いじめの未然防止を図る。	①登校指導を毎朝実施するとともに、遅刻回数が多い生徒に対して特別指導を実施する。また、保護者の協力を得て、月1回「あいさつ運動」を実施する。 ②問題行動を未然に防止するため、日々の校内巡回を徹底しつつ、スマホ・ケータイ安全教室、非行防止教室などを実施する。また、学期に1回、交通安全週間を設定して交通マナー順守の徹底を図る。 ③いじめ防止アンケートの実施、教職員間の情報共有などにより、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を行う。	①欠席者率、遅刻者率 ①皆勤者率 ②③特別指導件数 ③いじめ防止アンケート結果	概ね達成できた。 ①前年度と比較して欠席者率、皆勤者率は良くなっているが、遅刻者率は前年度並みであった。特に遅刻回数が多い生徒に対して、保護者の協力を得ながらどのように指導、改善していくかが今後の課題である。 ②「時間・身だしなみ・挨拶」を中心に全教職員が足並みを揃えて継続的に指導している。また、スマホ・ケータイ安全教室、非行防止教室、薬物乱用防止教室などを実施し、問題行動の未然防止に努めている。その成果もあり、指導件数及び指導対象生徒数は前年度と比較して減少した。 ③いじめ防止アンケートの実施、教職員間の情報共有などにより、いじめの未然防止、早期発見を行った。問題発生時には管理職、学年、分掌等の関係者でケース会議を行い共通認識の下、組織的に迅速に支援体制を敷いた。その結果、いじめ等に対して早期対応をすることができた。	B
2	・きめ細やかな学習指導、進路指導により、医療看護系学校への合格者数を過去最高まで押し上げるなど、進路実績においても成果を上げている。今後も学力の向上に向けて、少人数学級編成、習熟度別授業展開など一人一人にきめ細やかな学習指導を行うとともに、3年間を見通した進路指導、早朝補習、面接指導などにより、生徒一人一人の進路実現につなげるように取り組む必要がある。 ・知識や技能だけでなく、思考力、判断力、表現力など、これからの時代を主体的に生きるために必要な資質や能力の育成が求められている。「主体的・対話的で深い学び」についての授業改善や授業研究に取り組む必要がある。	・学力の向上を図り、生徒一人一人の進路希望の実現を図る。	①生徒による授業アンケート(年2回)を実施して、その結果を授業改善に活かす。 ②授業公開週間(年2回)を設定し、積極的に授業を参観し合い、授業改善に取り組む。 ③各種検定試験の受検を奨励する。 ④1年生の段階から3年間を見通した進路指導、朝補習、計画的な面接指導などにより、生徒一人一人の進路実現に向けた進路指導を行う。	①生徒による授業アンケート結果 ②授業公開週間参観状況 ①②成績優良者数、成績不振者数 ③検定試験受験者数と合格状況 ④大学進学者数、就職内定率 ④朝補習の実施状況及び参加状況	ほぼ達成できた。 ①生徒による授業アンケートを年2回実施し、その結果をもとに個々の教員が授業改善に取り組んでいる。 ②授業公開週間の参観者は少なかったが、JICA教師海外研修者や10年経験者の研究授業に校内の多くの教員が参観して授業研究をする環境が醸成された。 ③成績優良者数は前年度並み(22%)で、成績不振者数は前年度に比べて5%減少した。 ④生徒の頑張り、きめ細かい指導により英語検定2級1名、ビジネス文書検定1級3名、2級23名、珠算電卓検定(普通計算部門)1級2名、2級6名が合格。前年度と比較して増加した。 ⑤進路指導部を中心としたきめ細かい指導により、大学合格者数の増加、就職内定率の早期100%達成など進路希望を実現している。 ⑥年間を通した早朝補習、定期考査前や長期休業中の補習を実施した。年度当初に比べると参加生徒数は減っているが、意欲のある生徒は継続している。	A
		・「主体的・対話的で深い学び」について授業研究に取り組む。	①「未来を拓く『学び』プロジェクト」における公開研究授業を実施する。 ②「主体的・対話的で深い学び」に関する授業改善研修会を行う。	①「未来を拓く『学び』プロジェクト」に公開研究授業の実施及び参観状況 ②授業改善研修会の実施状況	概ね達成できた。 ①11/6に「未来を拓く『学び』プロジェクト」研究推進員6名、初任者3名の計9名の教員による協調学習の公開授業を実施した(前年度は3名)。当日は校外(8名)、校内から多くの参観者があった。 ②9/21に教職員対象の授業改善研修会の開催し、全教職員が生徒となり知識構成型ジグソー法を用いた協調学習「城築城シミュレーション」を経験し「主体的・対話的で深い学び」について授業研究に取り組んだ。	B
3	・中途退学者は前年度より減ったが少なからずいる。今後も、基礎学力の定着を図るとともに生徒理解に基づきながら生徒一人一人に行き届いたきめ細やかな指導を行うとともに、学校行事、部活動を活性化させて、学校生活に目的意識を持たせる取組を実施していく必要がある。 ・昨年度は、学校説明会の開催時間の変更や、体験入学開催日の増設など工夫を試みた。その結果、前年度と比較して学校説明会の参加人数は増加したが、入学志願者倍率は前年度を少し下回った。今後は、安定した生徒募集の実現に向け、既存の取組について検証を行い、常に改善意識を持ちながら広報活動と地域への貢献活動をより一層推進していく必要がある。	・学校行事、部活動の活性化を図り、中途退学者数を減少させる。	①楓樹祭、体育祭、予餞会などの生徒会行事に積極的に取り組ませる。 ②部活動全員加入制、アルバイト届出制を継続し、部活動への加入を奨励する。 ③部活動や学校行事の活性化などにより、生徒がより積極的に学校生活に取り組める環境整備を推進して、中途退学者防止につなげる。	①文化祭来校者数 ①生徒・保護者のアンケート結果 ②部活動加入率 ③中途退学者数	ほぼ達成できた。 ①楓樹祭の来校者が初めて1,000名(1,178名)を超えて地域に根ざした文化祭となっている。体育祭、民泊体験修学旅行が成功するなど学校行事を通してクラスの絆を深め、生徒が健やかに成長している。 ②部活動が活性化してきた。部活動加入率63.1%(+1.8%)。全国大会に書道部、自転車競技部、関東大会に自転車競技部、県大会にサッカー部、陸上競技部、柔道部が出場、吹奏楽部はC部門で優秀賞など生徒の活躍が目立った。 ③中途退学者数は前年度と比較して増えた。今後の課題である。	A
		・本校への理解が深まるように情報発信を行い、地域との連携をさらに深める。	①全教職員による中学校訪問、学校説明会、彩の国進学フェア、体験入学を効果的に実施する。 ②ホームページの更新、「ファミ・インフォメーション」の発行などの積極的な広報活動を行う。 ③近隣の学校や介護施設等との交流活動、地域清掃、富士見市主催行事参加などボランティア活動を奨励する。	①中学校訪問、学校説明会、進学フェア、体験入学等の実施状況 ②ホームページの更新回数及びアクセス数、「ファミ・インフォメーション」の発行 ①②入学志願倍率 ③近隣学校及び介護施設等との交流活動、交流活動の参加者数、地域行事への参加生徒数	ほぼ達成できた。 ①全教職員による中学校訪問による広報等により学校説明会、体験入学、進学フェアに多くの中学生の参加者があった(計657名。昨年度は692名)。 ②ホームページを逐次更新し本校の教育活動、校長の教育方針などを広く保護者、地域に発信した。4月から117,200件のアクセス数があった(2/1現在)。また、「ファミ・インフォメーション」を年4回発行し、近隣中学校及び富士見市内の公民館等に配布した。 ③12/15現在の本校希望生徒は198名(0.83倍。昨年度は0.80倍)であった。 ④17の富士見市主催等の行事、近隣学校交流などに吹奏楽部や演劇部、書道部など部活動と110名の有志生徒が参加して地域貢献をした。有志生徒に対しては校長表彰をした。	A

学校関係者評価	実施日 平成30年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・生徒と先生のコミュニケーションがよくとれていて、生徒同士も男女の隔てがなく仲良く学校生活を送っている。</p> <p>・素直な生徒が多いことが本校の良さである。また、本校を居場所と思っている生徒が多い。</p> <p>・入学した生徒たちは高校生活の3年間で、新しい人生に向かって生きていく生活力が身に付いている。安心して通わせることができる学校である。地域の評判もとても良い。昔と比べて学校全体がとても落ち着いた。</p> <p>・86%の生徒が学校や社会のルールやマナーが身に付いている、91%の保護者が本校の生徒は校則や社会のルールを理解して行動していると回答している。校則が厳しいとの少数意見もあるが、校則が厳しいとは思わない。今後も社会に出てから守るべきマナーを身に付けさせてほしい。</p> <p>・多くの生徒たちは、先生が言っているから生徒がやっているのではなく、生徒自身が自主的に守っている。</p>
前回、授業見学した時よりも生徒はさらに集中力を持って真面目に授業を受けていた。	・先生方が生徒の変化を見逃さずに、生徒一人一人に向き合って声を掛けている。
・社会や上級学校に進んでからも最低限の基礎学力が必要である。今後も、先生と生徒の絆を強くして、基礎学力の定着を図るとともに生徒理解に基づきながら生徒一人一人に行き届いたきめ細やかな指導を行ってほしい。	・進路目標を持って学校生活を送っていると答えている生徒が67%に留まっている。キャリア教育は大切であるので、社会に出てからも迷わないように、今後も1年生の段階から進路意識を高める指導を継続的に実施してほしい。
・自作のプリント教材など、生徒の実態に合わせた授業を展開している。しかし、また講義型の授業が多い印象を受ける。2020年に大学入試が大改革される。それに応えられるよう、アクティブ・ラーニングへの取組はすぐにも始めるべきである。一人一人の取組から、チーム国語科、チーム〇〇など組織的な取り組みに移行することが求められる。これまでの授業を一回壊して作り上げていくつもりで、アクティブ・ラーニングの積極的な導入を期待する。ポテンシャルの高い先生方であるから可能であろうと思っている。	「主体的・対話的で深い学び」や新たな大学入学者選抜や新学習指導要領に対応した教育課程編成、授業計画について、教職員研修会や先立校視察などで研究していく必要がある。また、アクティブ・ラーニングなどの取組において本年度の授業改善研修会の内容を更に発展させてスパイラルアップを図る必要がある。
・文化祭などの学校行事は、先生方が生徒とのコミュニケーションをとって深く関わりを持ちながら進めている。楓樹祭(文化祭)には毎年来校して見学をしているが、今年の楓樹祭も一つ一つのクラス発表が創意工夫がされていて、素晴らしい。文化祭は多くの来校者が楽しめるように日的にも配慮してほしい。	・中途退学者が前年度と比較して増えたが、生徒は強い希望を持って入学してきているので、今後も、生きる力、課題解決力、自己肯定感を高めて生徒の思いをカタチにしてほしい。
・中途退学については、学校や生徒だけでは解決できない課題である。コミュニケーションの時間を確保するなど家庭(保護者)でも改善策を考えてほしい。家庭の在り方を周りで支えることが大切である。スクールソーシャルワーカーとの連携が更に必要になってきている。	
・本校は、来校者に対して歓迎して受け入れてくれる学校である。とても良いと思う。	・富士見市主催等の行事、近隣学校交流などに生徒が参加してくれて助かっている。今後も小学生との交流など、生徒たちががって良かったという感動体験を続けていってほしい。
・富士見市子どもフェスティバルやふるさと祭りなどの行事に生徒会、部活動など多くの生徒が参加してくれて富士見市教育委員会としても嬉しく思っている。特に書道部の書道パフォーマンスは素晴らしい。	